

—わたしたちの行動が次の時代のまちをつくる—

まちづくり会議

開催報告

第3回

「まちづくりの種」を育てるために
必要なこと



阿賀町 まちづくり観光課 まちづくり係

■開催日時・場所

令和元年10月24日（木） 午後7時から午後9時

阿賀町公民館 講堂

出席者 30名 欠席11名

■第3回ワークショップのプログラム

1. これまでの振り返り
 2. アイスブレイク
 3. チームの「まちづくりの種シート」とアクションプランを考えましょう
 4. 本日の振り返り
 5. 事務連絡
-

■第3回ワークショップの概要

本日の目標は、新たなチームで未来日記やプロジェクトをつくることでビジョンや目的、現状の問題を把握することとし、「まちづくりの種シート(プロジェクトの構想を考えるためのシート)」をつくることゴールとした。

前段で第1回、2回の会議でのこれまでの作業を振り返り、今までの作業がどのような意図をもって行われたのか、そして自分たちが「やりたい」と考えることの目的を「なぜ」と繰り返し問い続けさせる意図は何かについて説明の時間を設けた(資料1-8)。それは「なぜやるのか」が明確になっていないと「プロジェクトが始まらない」「プロジェクトが継続できない」「まちづくりにならない」ことが理由であることを参加者に伝えた。

また、「未来日記」「プロジェクト」「アクションプラン」の定義の再確認を行い、ベストなプロジェクトをつくるためのヒントやプロジェクトについて参加者が作業に入る前レクチャーを実施した。

チームの「まちづくりの種シート」をつくる前に、前回作成した個人の未来日記をチームで共有し、まちづくりにおける「思い」の共有、「思い」をさらに深く掘り下げて直接的な目的と手段の先にある「真に実現したいこと」を明確にする時間を設けたのちにチームの「まちづくりの種シート」をつくり、本日の振り返りを行い閉会した。

■ワークショップの様子

今回全体の25%が欠席したことで、チームによっては参加者が少なく、チーム全体でのプロジェクト案の話が十分にできなかったところもある。参加者が少ないながらも、自主的なワークでカバーしあいプロジェクト案をある程度構築できたところ、微妙にやってみたいことにズレのあるチームながらも対話を通しお互いに深く問い続け、「目指す未来」を共有することができプロジェクト案をつくるための大きな一歩を踏み出したチーム、そしてほぼプロジェクト案を固めたチームと進捗状況は様々である。

今回のワークでも重視したのは、その人が「なぜ」そのように考えるのか「真に実現したいこと」を見出すことである。「プロジェクト案」があるにもかかわらず「プロジェクト」の話をせずに「なぜ」を深く問い続けること、自分とは違う考えの他者の話に耳を傾け続け同じ未来を見出すことには根気も苦悩も伴う。

しかし、この生みの苦しみを乗り越えたチームは、今回はプロジェクト案まではたどり着いていないが、チームビルディングがうまくできて、たくさんひらめく「プロジェクト案」を落とし込むだけになっており、明るい表情をしている印象があった。

その一方、プロジェクトのアイデアはたくさん出るものの、お互いの目指す未来についての理解が十分に深められていないところは合意ができず苦悩している様子であった。

ワークショップ冒頭でも、無理にシートを完成させるのではなくお互いの考えや思いを共有してもらうことを大切にしてもらうことにしたので、「まちづくりの種シート」については未完成のチームが大半である。

しかし、この生みの苦しみを乗り越えると大きな第一歩を踏み出すことができると思うので、今後の動きに期待したい。



■次回について

次回は今回のプロジェクト案をさらに磨き上げ、進められるチームはアクションプランも作っていくことになる。また今回以降は各チームの進捗状況に応じて自主的な活動を行っていただくこととした。

生みの苦しみを超えて第一歩を踏み出せるのか、それともアイデアどまりになるのか、一人ではできなかったことをチームで実現できるのか、それとも合意できずじまいなのか。「ワガコト」化し自分が主体的に動けるのか、それとも他人任せでだれか任せのままのプロジェクト案のままで終わるのか、今後2回の会議を見守りたい。